

「ごめんね」の一言で

小 三

わたしは、前に、友だちとけんかを
してしまいました。なかよしの友だち
のことをびっくりさせようと思って、
かくれて待っていました。かくれてい
るときは、友だちがおどろいてくれる
ことを楽しみにしながら待っていました。
た。そうしたら、おどろかす前に、友
だちに先に見つかってしまいました。
わたしが、わらってごまかそうとした
ら、友だちはいやな顔をしていました。
それから口をきいてくれなくなっ
てしまいました。わたしは、友だちをよ
こばせたかったただけなのに、口をきい

てくれなくなったことで、いやな気持
ちになり、わたしも口をきくのをやめ
ました。

わたしから先に、あやまろうとした
けれど、「ごめんね」と言うことが少
しはずかしくて、どうあやまればよい
のだろうと思っていました。あやまっ
ても友だちがゆるしてくれなかったら
どうしようと思い、なんだか少しこわ
い気持ちもあり、何日も言えません
でした。

友だちが他の友だちとおしゃべりを
しているのを見て、「わたしもまざっ
ておしゃべりをしたかったな。」とき
びしい気持ちにもなりました。いつも
自分のことを何でも話していた一番の
友だちと口をきかないということは、

とてもつらくて、なんだか毎日が長く感じました。ずっとこのままだったらどうしようというふあんな気持ちのまま、二週間がたってしまいました。

その間わたしは、一人で遊んでいても、楽しくありませんでした。なぜだか、友だちと二人で遊んでいた、楽しかったときのことで頭の中がいっぱいでした。そう思っていると、いっしょにおしゃべりしたいことがたくさん出てきました。

わたしは、「今日こそあやまろう。」と心の中でずっと思っていました。

学校でおもしろい本の話聞くことがありました。その本は悪いことが実はゆめだったという終わり方でした。わたしも、この二週間でゆめだったら

いいなと思いました。今思えば、この本に少しだけゆうきをもらっていた気がします。早くなか直りをして、その本の話で友だちにも聞かせたくてたまりませんでした。

その日の帰り、友だちと二人だけになりました。わたしは少し前を歩いていた友だちの名前をよびました。友だちがふりかえったときにゆう気をもつて、

「ごめんね。」

と言えました。「ごめんね」の一言が言えたときに、わたしの心がすっと軽くなつて、「よかった。やつと言えた。」と思いました。そうしたら、友だちも、

「わたしこそごめんね。」

と言ってくれました。わたしはとって
もうれしくなりました。

一言「ごめんね」と言うだけなのに、
とてもはずかしくて、こわくて何日も
言えないままでいたけれど、「ごめん
ね」と言えたら、なんだかわたしの心
も強くなれた気がします。その日はす
ぐに家に帰りました。わたしは、なか
直りをしたときからとっても気になっ
て考えていたことがありました。それ
は、友だちが何でわたしにも「ごめん
ね」と言ってくれたのかということだ
す。わたしは、友だちのことを思いな
がら、いろいろなることを考えました。
「実は友だちもわたしと同じ気持ちで
二週間をすごしていたのかな。」「きっ
と友だちも本当は自分から『ごめん

ね』と言おうとしていたのかな。」そ
してわたしは、友だちにはきつとわた
しのことを思ってくれる思いやりの心
があつたのだと思いました。

次の日からは、友だちと前よりも
もつとなかよく遊べるようになったな
と思います。ときどきけんかをしても
「ごめんね」と言えるようにもなりま
した。そして、「ごめんね」という言
葉を使うときは、とても大きなゆう気
がひつようだと思っていたけれど、実
はほんの少しのゆう気があればだい
じょうぶだということが分かりました。
その少しのゆう気があれば、友だちと
もなか直りができるし、何より自分の
心が強くなれると思いました。
わたしは「ごめんね」の一言には、

相手へのたくさんの思いやりがこめられていると思いました。「ごめんね」の一言は、けんかをしていたときの苦しかったわたし、そして同じようにきつとなやんでいた友だちの心をすなおにさせてくれた大切な一言だと思いました。